



松江高等学校同窓会事務局 松江市奥谷町164 島根県立松江北高等学校内 4888 0655 0852 6988

第9号

同窓会の合併成る

松江高校 旧松江北高同窓会長 森 本 暉

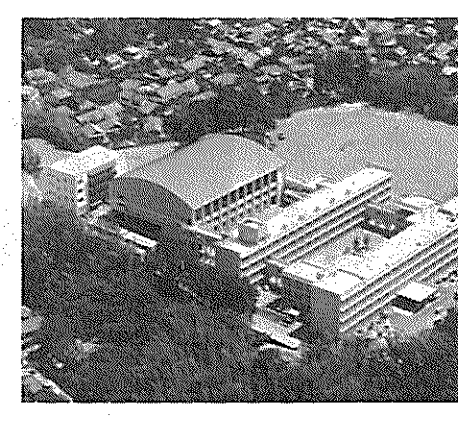
卒業生の皆様には、その後も益々御健勝で御活躍のことと思ひます。昨年五月、松江北高創立百周年及び校舎竣工記念行事が盛大に行われましてから、はや一年有余を経過し、いささか遅きに失した感はありますが、その後の同窓会の統合等の経過を報告し、北高同窓会としては最後の会報をお届けすることにいたしました。

私達同窓会は、戦後の教育制度の改革や度重なる学校の統合分離等により複雑な歴史を歩んでまいりました。特に、旧制の中学校や女学校との関係については、当時は戦後の大きな時代の転換期でもあり「新しい時代は我々が築いて行くんだ」という、いささかの

史が百年であることは、そこを卒業した同窓会の歴史も百年でなければならぬ」と、改めて統合を要請しました。幸い、先輩諸兄の賛同を得、とりあえず旧制松江中学校の同窓会である双松会と合併することとなり、百年祭の一周年目に当る昨年五月二十二日、新しい同窓会の役員会を開催し、正式に「双松会」として発足することとなりました。

一昨年のあの全市を挙げての祝賀行事の中で、私達はもろろん在校生諸君においても、同じ学舎に学んだことをえにしとした、人間の絆の尊さを、ある

気概もあつて、独立した同窓会組織が誕生したものと思つております。しかし、誰しも経験のあるとおり、お互いに年齢の若い間は、同窓会意識などあまりないものですが、やがて年月を経、社会的にも様々な人間関係ができてまいりますと、同郷とか同窓の有難味が次第に痛感されてくるもので私達同窓会におきまして、これまで先輩同窓会との不幸な断絶の時代を何とか解消しようと、昭和三十七・八年頃から折にふれ、統合を働きかけてまいりましたのであります。そして昨年の創立百周年行事の一つとして開催されました、五つの同窓会の合同総会におきまして「学校の歴史を作成した。」



〇松高北高同窓会幹事会 昭和五十四年四月二十四日、ホテル一文字屋で幹事会を開催し「双松会」と松高北高同窓会を一本化する」と、「一本化後の同窓会の名称を「双松会」とすることを全員一致で決定した。

〇双松会・松高北高同窓会幹事会、合同総会(新)双松会創立総会 昭和五十四年五月二十二日、双松会・松高北高同窓会幹事九十名の出席のもとに、ホテル一文字屋において合同総会が開催された。双松会・松高北高同窓会会長並びに松江北高校校長挨拶に続いて、合併についての経過説明があり、(新)双松会の創立が承認された。次いで創立総会にうつり、双松会会則、及び役員が決定された。

〇一本化についての話し合い 以前から、北高が赤山に復帰して創立百周年を迎えるに当たって、「双松会と松高北高同窓会を一本化してはどうか」という声があった。松江北高創立百周年記念の式典の準備をするための幹事会の席上でも、何度か話し合い、全員一致で「双松会と松高北高同窓会との一本化」を進めることに決定した。なお、一本化についての話し合いには、双松会から一本化のための小委員十二名、松江北高同窓会から、会長・副会長等が出席し、継続的に協議することになった。以下に、その会合の概略をのべる。

双松会・松高北高同窓会の一本化についての経緯

〇第一回双松会・松高北高同窓会代表者会 昭和五十四年二月二十四日、北高起雲館で開催した。双松会から委員九名が出席した。

〇双松会・松高北高同窓会幹事会、合同総会(新)双松会創立総会 昭和五十四年五月二十二日、双松会・松高北高同窓会幹事九十名の出席のもとに、ホテル一文字屋において合同総会が開催された。双松会・松高北高同窓会会長並びに松江北高校校長挨拶に続いて、合併についての経過説明があり、(新)双松会の創立が承認された。次いで創立総会にうつり、双松会会則、及び役員が決定された。

〇松高北高同窓会幹事会 昭和五十四年四月二十四日、ホテル一文字屋で幹事会を開催し「双松会」と松高北高同窓会を一本化する」と、「一本化後の同窓会の名称を「双松会」とすることを全員一致で決定した。

〇双松会・松高北高同窓会幹事会、合同総会(新)双松会創立総会 昭和五十四年五月二十二日、双松会・松高北高同窓会幹事九十名の出席のもとに、ホテル一文字屋において合同総会が開催された。双松会・松高北高同窓会会長並びに松江北高校校長挨拶に続いて、合併についての経過説明があり、(新)双松会の創立が承認された。次いで創立総会にうつり、双松会会則、及び役員が決定された。

〇一本化についての話し合い 以前から、北高が赤山に復帰して創立百周年を迎えるに当たって、「双松会と松高北高同窓会を一本化してはどうか」という声があった。松江北高創立百周年記念の式典の準備をするための幹事会の席上でも、何度か話し合い、全員一致で「双松会と松高北高同窓会との一本化」を進めることに決定した。なお、一本化についての話し合いには、双松会から一本化のための小委員十二名、松江北高同窓会から、会長・副会長等が出席し、継続的に協議することになった。以下に、その会合の概略をのべる。

ご挨拶

学校長 前川 多助

同窓会報がお手もとに届く頃は、赤山の地に春を告げる松籟も聞こえることと思ひます。卒業生の皆様には益々御健勝で御活躍のことと大慶に存じ上げます。 早いもので、赤山台上の新校舎に移転し、創立百周年・校舎竣工記念の式典から二年になります。その節は皆様多数の御参加を賜りまして盛大に終りましたこと厚く御礼を申し上げます。記念事業としての同窓会館(起雲館)等のために御寄附下さいました多額の御寄附や数々の御支援、御協力に對しまして、衷心より感謝申し上げます。

川津校舎離校式(五三・三・一七)の時私は生徒達に話しました。「……眼を閉じて、この川津校舎のまぶたに浮かぶ場所をいくつか指折して下さい。それをしっかりと脳裏に刻んで下さい。坂のついた廊下、大きな屋根の体育館、立派でもない便所、鉄の扉のある図書室等々いろいろな場所が浮かぶと思ひます。建物は確かに老いてはいますが、しかしこの校舎での卒業生は一万四千名近くになります。川津校舎よ、ありがとう、さようなら……」

三月二十日には赤山の新校舎入校式。この時には「……新校舎入校に至る恩恵に對しての感謝と、質実剛健」「二本松」「双松」「赤山」という言葉でなく、実体の場に移ったこと、歴史ある場所、

募金事業報告と御礼

昭和四十七年より開始された同窓会館建設基金募金事業に對しては、多数の諸兄弟の温かい御理解と御賛同を賜り、別表の如く所期の目標を達成し、昭和五十三年十一月十五日収入総額から事務経費を差引いた一七、四四二、八五一円を移転改築期成同盟会に引継ぐ事が出来ました。これは偏に、皆様方の母校にお寄せ下さいます深い思いのあらわれと心より感謝申し上げます。 また、長年にわたり、募金事業の推進役として御尽力下さいました各期幹事の皆様にも心より御礼申し上げます。

そして美しい環境の地で生活するのであるが、バイオニアであり、新たな世紀への創造者になってもらいたい……」と願いました。これら離校式・入校式の時の一年生が今春三月卒業することになります。

その後、川津校舎で生活された方々の青春像やドラマを黙々と見てきた川津校舎の樹木の数多くを赤山に移し植えて、五月二十一日の創立百周年・校舎竣工記念日を迎えたわけであり、式典当日、「伝統の校風、質実剛健」を基盤として、この赤山の自然が教えてくれる、たくく、ひろく、うつくしく、を目指して高く飛べ、ひろく世界の果てまで翔べ、美しくとべ、若鳥よ飛翔せよ……と話しました。その後も強く心に願ひながら日々の営みを通じていいます。

昨年五月、双松会と松高北高同窓会の合併による新双松会の発会。七月には川津校舎跡(現在県立プール)に立派な松江北高等学校校跡地之碑の建立等、北高発展のための御厚情に心から感謝申し上げます。

全国各地で活躍中の卒業生の皆様の御健康と御多幸を祈念申し上げますとともに、近く卒業して皆様の仲間入りをおさせいただく、四六〇名近くの後輩のことよろしくお願ひ申し上げます。

(昭和五五・一・二五記)



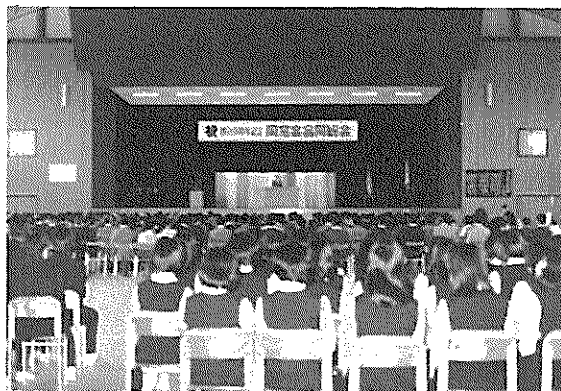
起雲館と整備が進む周辺の庭園

収入			
費目	予算額	決算額	増減
寄附金	15,000,000	17,597,650	2,597,650
雑収入	1,000,000	2,451,442	1,451,442
合計	16,000,000	20,049,092	4,049,092
支出			
費目	予算額	決算額	増減
会議費	30,000	25,000	△ 5,000
印刷費	90,000	181,900	91,900
通信費	700,000	1,943,020	1,243,020
振替手数料	50,000	103,915	53,915
事務費	130,000	352,406	222,406
合計	1,000,000	2,606,241	1,606,241
差引			20,049,092 - 2,606,241 = 17,442,851

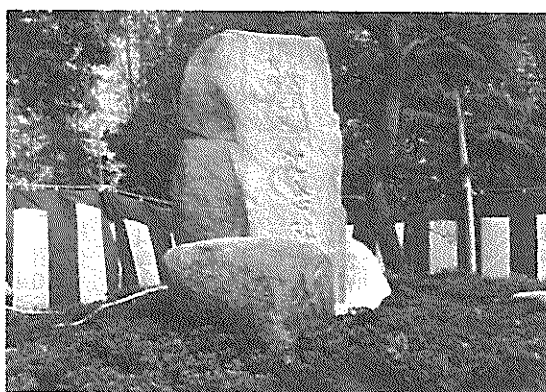
期	目標額 万円	融出額 万円	融出者数 (卒業生数)	期	目標額 万円	融出額 万円	融出者数 (卒業生数)
1	150	167.6	126(294)	11	100	82.8	165(639)
2	"	225.5	180(538)	12	60	79.9	151(664)
3	"	168.9	175(688)	13	"	35.76	106(709)
4	"	151.08	164(492)	14	"	24.15	77(703)
5	100	116.3	231(609)	15	30	15.4	47(296)
6	"	120.25	232(609)	16	60	32.5	103(464)
7	"	115.0	197(625)	17	"	21.45	74(590)
8	"	111.6	199(628)	18	"	27.0	89(608)
9	"	82.8	165(661)	通	30	43.65	191(300)
10	"	114.7	192(649)	他	-	23.425	82(-)
融出額合計		17,597,650円		融出者数		2,946人	
平均融出額(1人当り)		5,973円		目標額に對する到達率		117.3%	
				融出者率		27.4%	

祝う百周年 集いよる友・友

北高が、そして同窓会がここ数年来力を注いできた百周年関係の諸行事は、各方面の御力添えにより、成功裡に終えることができました。同窓会は旧川津校舎への惜別の会、合同同窓会、及び祝賀会を主催致しました。同窓各位の御協力に感謝申し上げます。



本校体育館での同窓会合同総会。写真手前の生徒は、百周年を記念して作られた「赤山音頭」の合唱隊。



正門横に建てられた創立百周年、校舎竣工の記念碑の除幕式。揮毫は前双松会長・故田部長右衛門氏。



(写真右) 赤山を出た提燈行列が、末次公園で同窓会と合流。
(写真左) 末次公園で「赤山音頭」を踊る女子生徒。



創立百周年記念講演(要旨)

ととのえる

勝平宗徹先生

「おのれこそおのれのよるべ、おのれをおきて誰によるべぞ。よくととのへしおのれにこそ、まこと得がたきよるべをぞ得む」

これは、この世の中で本当に自分が頼りにできるものは何か、と云う問いに答えた釈迦の言葉である。「よるべ」とはよりどころであるが、我々は様々なかたから殆ど他人に頼って生活している。しかし、いよいよのところは自分自身の力で切り開いていかねばならないものだ。結局、よりどころになるものは自己ただ一人であるという考え方が大切なのである。そのためには、

よりどころとしての自分を作っていく必要がある。尊い経験を積んでいく、知識を体を通して、体験を経てそれを智慧としていくのである。体究練磨、「おのれこそ、おのれのよるべ」と。ところが、自分というものを考えてみると身勝手な、わがままなものだ。したい放題にしていたら、何をしてもすかかわらない。だから、常にたすなをを引き締めなくてはならない。つまり自分を「ととのえる」なければならぬ。それでは「ととのえる」とはどういうことか。物事をなすには、そのための姿勢というものがあつた。そこで体をと

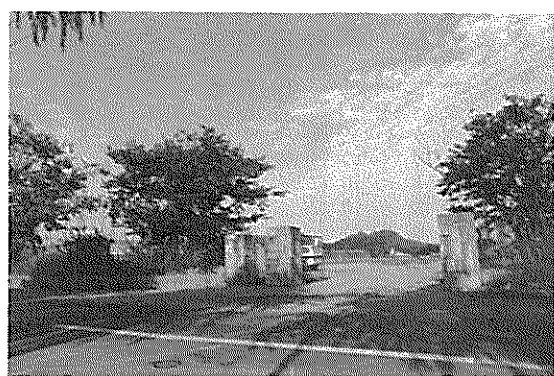
ととのえる。次には呼吸をととのえる。そして、心をととのえる。調えること。静かな心で、自分のこれから向うことに取り組んでいく。調えるためには不断の努力が大切だ。体究練磨、血となり肉となる人生勉強が大切である。読書が必要だ、師と仰ぐ人の教え、あるいは先輩を、よき友を得る。こうした努力、本當の勉強は学校を出てからはじまる。現在も将来も努力を続けなくてはならない。大学を出たら、就職をしたら、それで万事終わりという生涯であつては、せつかにこの世に生まれてもこの世を有意義に送つたとは言えないだろう。生涯おのれを調えることを、努力してもらいたいと思うのである。

勝平宗徹師

松江中学六〇期・東京大学卒。臨済宗南禅寺派管長。万寿寺住職。

川津の地に青春の記念碑

川津校舎跡地の記念碑の除幕式は昨年七月十四日挙行されました。表の碑文は佐藤春夫の詩の一節より兼折博元校長が選定され、前川多助現校長が揮毫されました。



旧川津校舎正門より嵩山を望む

さがえり そして さとづくり

二期会々長 葛尾信弘

昭和二十五年十月八日記念祭の運動会も終つて赤山山上漸く夜の気配が迫つてきた。

七十年の輝かしい伝統をもつ赤山、健児のシンボル二本松と永遠にお別れする「離別式」が我々の手で行われようとしてゐる。全国に覇を競い、また夕の赤道湖にその勇姿を浮べた短艇、亀田号の残がい茶毘に附した。そしてストームでおどり狂い、我々は下山した……

この様な思い出深い赤山での六年間の学窓生活に別れを告げて以来早や四半世紀を経過した。長女は川津校舎にお世話になつたし、長男もまた赤山に通学するめぐり合せとなつた。

思えば母校の赤山復帰の道程は長かつたが漸く実現し新校舎竣工移転合せで創立百周年記念祭を祝つたことは誠に慶賀に堪えない。

若かりし日の わが夢ぞ そこに狭霧ふ

(松江北高校跡地の碑)



卒業生御著作作品の蒐集について
校史資料
松江北高校図書館では、本校卒業生の御手になる御著作作品と、学校史の資料となるもの(過去の本校に関わる一切の品々)を蒐集しております。長い伝統の中で先輩諸氏の御研鑽の成果を後進の鞭撻の資とするものであります。

御惠贈いただければ、起雲館内校史資料室(芝蘭室)に大切に陳列、保存させていただきます。御著作作品をお持ちの方、本校の過去を偲ぶよすがとなるものをお持ちの方、またはそういう方を御存知の方の御一報を切にお願い申し上げます。(図書館)

事務局より

◇同窓会報第九号をお届けします。百周年記念行事を終えることはできませんでしたが、発行が大変遅れてしまいましたことを深くお詫び致します。

◇記事にもありますように、旧松江中学の同窓会である双松会と松高北高同窓会が合体し、新「双松会」として発足しました。松高北高関係からは森本会長が副会長として会の運営にあたられます。又、それに伴い、事務局組織も変わりましたのでお知らせします。

事務局 諏訪秀富(北高教頭)

事務局 井原 泰

他校内幹事 三十三名

◇同窓会名簿の改訂期が近づきました。同封の葉書で友人の消息等、御存知の限りお伝え下さい。空欄の少ない名簿にしたいと思っております。

◇新「双松会」発足で、松高北高の同窓会報も装いを新たにすることにになり、その意味では松高北高同窓会報は、今号をもって終刊となります。これまでの各位の御協力に感謝いたします。(事務局一同)